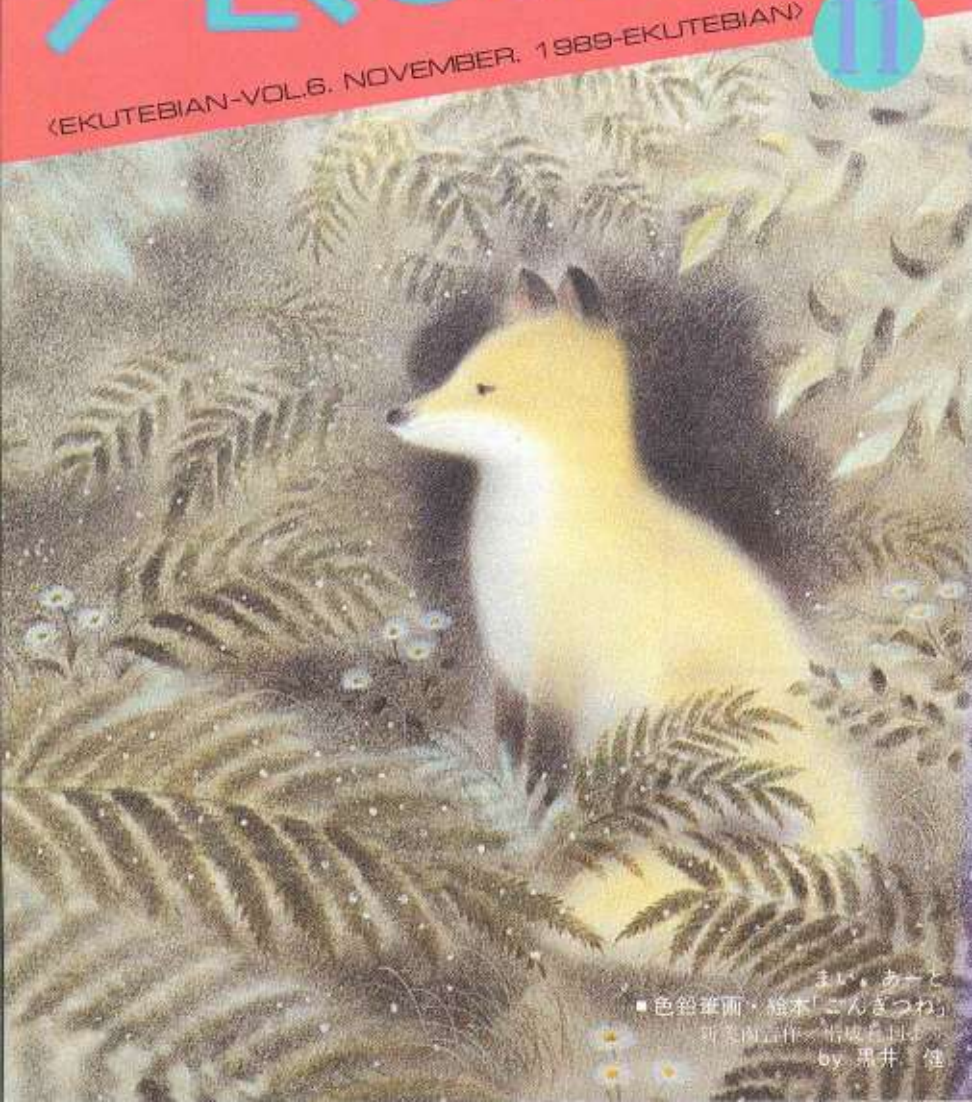
月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
11
〈EKUTEBIAN-VOL.6. NOVEMBER. 1989-EKUTEBIAN〉
まい・あーと
■色鉛筆画・絵本「ごんぎつね」
by 黒井 健

あの白い峰を越えて
立川女子高山岳部が世界の屋根ヒマラヤの高峰・チュルー南東峰（6、558m）に挑み、8月15日午後1時26分「初登頂！」の朗報が日本に届いた。隊長の高橋清輝氏を中心に一丸となって過酷な訓練にも耐えてきた「山に賭けた青春」に咲いた華麗な花だ。おめでとう、おめでとう。
8月15日午前5時25分、頂を目指し出発
タイ・ドンムアン空港よりネパールへ

漢字テスト㊻

空欄に一字挿入を試みよ。

▶● 窓 浄 机

▶弱 肉 ● 食

●11月23日●
技能功労者褒賞制度表彰式
ところ：市民会館第1会議室
※詳しくは☎㉓2111㈹537

「第1回立川えんえん祭り」

とき●11月12日㈰
10:00〜
会場●市民会館周辺
主催●立川市商店街振興組合連合会
●立川市

第1回目のテーマは「平成元年100円物語」。出店、クイズ、etcと、内容も盛りだくさん。「100円でこんなにいろいろ買える、まさに"100円満点"です」とは主催者のお話でした。

写真にみる立川の鼓動

全国655市がある中で、市民の手によって市民を讃える催しをしているのは、立川市だけです。

立川人・展

会場●立川駅ビル ウィル9F
ウィルホール（国立駅寄り）
時間●AM11:00〜PM7:00（最終日PM6:00）

秋も深まれば、この街には『ベスト立川人・展』の足音が響いてくる。もって生まれた才能と不断の努力によって彩られた、鮮やかな立川人の素顔！
今年は新企画での、揃踏み。

主催
えくてびあん編集工房

後援
立川商工会議所
立川青年会議所
立川市文化連盟
立川市社会福祉協議会
西武新聞社
立川観光協会
協和銀行／埼玉銀行
多摩中央信用金庫
東京都民銀行／富士銀行
三菱銀行／山梨中央銀行
第一勧業銀行
太陽神戸銀行

岡田久光さん／剣道↑
（柴崎町3丁目）
昭和54年以来、十年ぶりで立川警察署に優勝をもたらした指導者。

↑天野孝一さん／ミニテニス
（泉町786-11）
立川が発祥の地となったミニテニス。今や全国的なスポーツへと広がっている。

←松村知子さん／ミス立川
（曙町2丁目）
'89・立川の"華"に輝いた麗しき乙女。

未踏・チュルー峰制覇→
（高松町3丁目）
ネパールヒマラヤ・チュルー南東峰（6558メートル）の未踏の山に挑み、みごと登頂に成功した立川女子高山岳部の勇士たち。

斎藤一雄さん／相撲→
（栄町4丁目）
小学校のころより練成館で技を磨き、日体大に入ってからは一段と技の冴えをみせて第37代アマチュア相撲日本一の座に。

↑深井賢一さん／駅長
（曙町2丁目）
三つの時代を越え、平成のこの時、百年の歓びの季を迎えた駅長。

吉村さん・鉄さん↘／手づくりコンサート
（若葉町4丁目）
「沖縄ロックの女王」、喜屋武マリーを立川に呼び老若男女を問わないロックコンサートをつくり上げた。

立川・トピックス

店番は野菜たちにお・ま・か・せ

店には店番がいる、というのがフツーの世の中で、なんとこちらは無人のお店。買いたい人は代金を箱に入れて買っていくわけです。たまには合わないこともあるそうですが、それでもこうして続けている、そのココロイキ。やはり「渡る世間に鬼はない」、のです。（砂川町界隈）

秋はやっぱり"アート"だね

アート発信地、泉町にあるアートビレッヂには、現代アートの創造者たちが新天地を開いている。彼らによって、15日から10日間、新宿住友ビル・B1ギャラリー『花』にて、"木工の4人展"が開かれる。自然のなかにある素材を使って、自分だけの"アートの秋"を楽しんではいかが。

表紙は語る

まい あーと■色鉛筆画・絵本「ごんぎつね」新美南吉作／借成社刊より　by 黒井 健

今月の表紙にご登場頂いたのは、絵本画家の黒木健さん。淡いパステル調の色合いに、ほのかに包む暖さをあたえる画法で、特に若い女性に人気が高い人です。「よく"パステルで描いているんですか？"なんて聞かれますが、色鉛筆をいろいろと駆使して描きあげていきます。この道に入って17年目になりますが、時代とともにその方法も変っていってますね。以前に、絵本の編集を職としていまして、絵と一緒にくらせたら、と、思っていました。そして、その思いに向って懸命に打ち込んできました。一枚の絵から、いろんな人に出合えることができ、とってもステキなことだなと思いますよ」と、絵の温もりを知っている黒井さん。

「ようこそ、協和へ」
街角から笑顔のごあいさつ
いつもごいっしょ
協和銀行

真如苑だより

柿の赤味が、一里も先から見通せる「秋の空気」はどこから生れてくるのでしょうか。夏のあの淀んだ空気はまた、天が「来年用」に大切にとっておくのでしょうか。
さわやかな、秋の真如苑へぜひ一度、おこしください。

■日時　11月15日㈬ 午後3時〜5時
■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川市民（成人）に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

アメリカ↔立川 連載・6 AIR MAIL

えくてびあん エア■メール■ボックス

わが町プリンストンは秋まっ盛り、樹々は美しく装い、まさしくゴージャスという言葉がピッタリです。日本の紅葉はエレガントですが、ここの紅葉はリッチといったところです。ぜひ、無理にでも時間を作って見に来てほしいものです。

ところで私の15才になる息子、日本では高校一年、当地では10グレードですが、理科が好きなので今学期は迷うことなく生物を選びました。2週間が過ぎた頃、生物の先生が息子にたずねました。"ドゥー ユー アンダースタンド？"。教科書は理解できるのですが、先生の講義は言葉が聞きとりにくくて"ノー！"と答えました。先生は困った顔をしてすぐ息子のカウンセラーのところに行って何やら相談し、息子は美術に変更させられました。慌てたのは息子で、"ノー！"と答えたのは単に"難しい"というつもりだったのです。編入後わずか2週間、先生の話がそのまま聞きとれるはずがありません。もし、この時"ディフィカルト！"と答えていたら、こんなことにはならなかったでしょう。"ディフィカルト"には"難しいけど頑張る"の意味があるのです。"ノー！"には"全くダメ、手も足も出ない"の意味が含まれています。

とかく日本では、外国に行ったらイエス・ノーをハッキリ言うよう教えますが、親しい間柄であまりにあっさりとイエス・ノーを言ってしまうと、すぐにその友人関係は消えてしまいます。むしろ日本的な、やわらかな表現の方が良い場合も多々あるのです。しかし、息子は今、美術に燃えています。なぜならば美術の先生は美人のうえに、とってもとても親切なのだそうです!?
では、そのうちにまた。お元気で!!

児玉勝己さん（上砂町）ハンドベルの指揮者として世界で活躍中。氏の指揮する"エコーハンドベルリンガーズ"は昨年、音楽の殿堂"カーネギーホール"に招かれた。

工房から

●夏の終りに雲取山へ登ってきましたが、さすがあ東京都の最高峰とあって、なかなかキツイ登りでした。ヒマラヤのチュルー南東峰とやら、この何層倍のキッサかとただただ女子高校生の快挙を仰ぎ見るばかり。●山、高きが故に尊からず。そんなこたあ、分かってる。分かってはいるのですが、写真を眺めているだけで山がもつ崇高さが伝わってくる、やっぱし山はヒマラヤかね。●この街では、すっかりお馴染みになった『ベスト立川人・展』が今年で5回目を迎えるという。こういう写真展は一回か二回が限度で、第一、立川にはそんなに人材がいまいというのが大方の見方だった。ところが、いるわ、いるわで遂に5回目。●障子まで 柿の赤らみ えくてびあん

（編集）石塚敦美　小川知子　神山清子　堀川理　山田恵子　中村裕里　半沢正弘　原田悦子
（写真）天野武男　坂橋一明　吉田義治　スタジオ269　枝川一已　本多修

月刊えくてびあん　第64号
平成元年十一月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2-20-15
パークビューハイツ501 〒190
電話　〇四二五㉘〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

漢字テスト 答え

明窓浄机（めいそうじょうき）
明るい窓に整理した机、清潔で美しい書斎の様。勉強はまず整理整頓から。

弱肉強食（じゃくにくきょうしょく）
弱者が強者の犠牲になる意。「焼肉定食」とする答案が近頃多いそうですよ。

第5回

我家は3代目

老舗といい暖簾の重みという。それも3代つづけば語り尽くせない物語があろう。この街にも沈黙して静かなる物語のかずかずがそこここに隠されている。

タネに託した10代の歴史

昔は自宅の畑で種をとっていたが、今では環境が変って作れなくなった、と。

小林種苗店（幸町4丁目）

創業が天保4年という。3代をはるかに越えて10代目を数える老舗。歴代「藤兵衛」を名のり、10代目が襲名したのは昭和22年、27才だった。戦後の混乱期に、急逝した9代目の跡をついで大家族を支えることになった新婚間もない夫妻。「10年間は無我夢中だった」。砂川の地に250年。時代は移り、商いの仕方も変りつつあるが、その〝家の重み〟は長男正治氏の心に確かに受けとめられている。

明治初頭までは天秤を肩に武蔵・相模一円を商って歩いた。その頃の地図。

小林さん一家●
前列左から 央乃さん、藤兵衛さん、リツ夫人、聖歩さん
後列 正治さん、正子夫人

「花は日本が一番だね。品種改良がすすんでいて楽しみだし、やりがいがある」と藤兵衛氏。リツ夫人も「土が一番楽しい。種も次つぎ新しいのが出るから、今でも勉強してないといけないんですよ」。笑顔が若々しい10代目夫妻。